エゾマツ

北海道ボランティア・レンジャー協議会
第２１号
発行責任者　八戸　克美
1992年 4月28日

平成（４年）の春に想う

副会長　八戸　克美（江別市）

日一日と、まわりの野山の緑が色濃くなってきました。会員の皆様にはなにかと多忙な毎日と思います。

四月に入りましたら急速に雪がなくなり、今年は春が早いようです。関東地方では既に桜の花も散りはじめたとの便りも聞いていますし、札幌近郊でもちらほら農作業をしている姿も見られます。

さて、近年は種々地球規模の環境問題が提起されています。（地球サミットなど）新聞・テレビでも、自然が破壊されたとかある種の動植物が絶滅したとか身近な話題としては千歳川放水路などなど。これらのなかから、一部の団体が私にとっては行き過ぎとも思えるほど、自説を強調しているような感じを受けることがあります。

ともすれば私たち人間社会では利害得失がからみ、そのつながりが感情的言動に進むことが多いように思いますし、人間のエゴや自分の生活に関係がないと無責任なことを平気で言う場合もあるように思うのですが、これは私のひがめでしょうか。

いずれにしても自然の範囲は広いと認識していますが、そのなかの中核的役割を持つ樹木の場合でも、人工林で経済伐期に到達するのに５０年から１００年もかかるのですから、計画的に造林・伐採をすると緑豊かな森林が形成され、動植物もそれらの自然環境が急に変化しなければ生きていけるのではないでしょうか。もちろんこれに要する費用は、国民の生活に大きな役割を持ち、また、国土保全にもその働きが大きいことから国家負担にすることは当然です。

自分の利害だけという目先のことにとらわれず、他人のことも子孫のことも考えまた、地域的には日本全体だけでなく、地球全体を考えた自然保護や環境問題をみつめる心が大切であると思うのです。

先日のテレビで、釧路湿原でのタンチョウとハクチョウが一緒になって餌を漁る姿が放映されておりましたが、このようなことは珍しいそうです。また、新聞には苫小牧の北大演習林で、クマゲラとアカゲラが一本の樹で餌を求めいる写真が載っており、その微笑しい風景にほっとした気分になりました。

前号の道保健環境部自然保護課三岡保全係長の寄稿文にありましたが、昭和６１年からスタートしたボランティア・レンジャー育成研修も昨年までで３９７名のボランティア・レンジャーが誕生し、全道各地で活躍されておられるようですが会員を含め、今後の一層のご活躍を期待します。

（１９９２年4月6日）

『お　父　さ　ん　の　遺　産』（自己紹介に替えて）

幌延町　　酒井　一夫

一児の父となり、ろくな遺産も残せそうにない安月給取りの父ちゃんが、唯一誇りをもって娘に残してあげられる財産は北海道の大自然であると気付き、知識を得る機会を探しておりました。そんな折、ボランティア・レインジャー研修会開催の新聞記事を目にし、第８回丸瀬布町の研修会に参加をさせていただきましたが、そこで改めて自然に対する自らの無知を知らされる結果となってしまいました。

趣味でバードウォチングをされている方や、植物に造詣の深い方々の中で鳥と言えばスズメかカラスくらいしか知らない私は、場違いなところへ来てしまったことを後悔すると同時に、次の世代にこの恵まれた自然を残すためには、まず自分の知識をたかめなければいけないということを痛感いたしました。

幸いなことに私は、春になると青サギが営巣し旅立ってゆくところが職場の窓から見えたり、近くにサロベツ原野や北大の演習林もあり、学習の場にはこと欠かかないという環境に暮らしております。

できるだけ多くの機会をとらえて観察会に参加し、一日も早く皆さんといっしょに活動できるような知識を身につけ、子供達との散歩の時に「お父さんこの花は何んていうお花？」と聞かれたら、ニヤリとほくそ笑みながら、花の名前やいろいろなことを話してあげられる様なスーパー親父になりたいと願っております。

最後になりましたが、研修会の折にお世話戴いた多くの方々に、深く感謝を申し上げます。

私の自然観察

（財）北海道森林整備公社　　吉田　　勉
（元道保健環境部自然保護課保全係長）

昨年１０月、私が勤務しています「道民の森」神居尻地区で第１０回ボランティア・レンジャー育成研修会が開催され、講議等に出席させていただきましたが、この研修会の創設に携ったものの一人として、講義内容の充実、観察等の技術の向上、参加希望者の増加等、第１回に比べて目を見張るものがありました。

私も現在、「道民の森」で利用者指導の仕事をしていますが、今回の研修会は大変参考になり、大いに得るところがありました。

「道民の森」は、多くの道民が自然と触れ合い、自然の仕組みを知ることにより森林・林業への理解を深めていただくことを目的に整備した施設であります。

このため、数多くの催事を計画実施していますが、そのなかのひとつに自然観察会があります。この観察会は来園者を対象に開園中の日曜・祝日に１日２回行ない、「道民の森」ボランティア協会会員が１日５～７人の解説員として活動しています。

しかし、一人前？の解説員になるのは大変なことだと思います。私も「道民の森」勤務になるまで、自分が自然解説をすることになるとは夢にも思いませんでした。何とかせにやならんと思い、観察会の参加者の後から付いて行き解説員の話しを聞きながらの勉強です。

ボランティア協会会員でも、最初から解説が出来る人は数えるほどしかいませんでしたが、熱心な会員は私同様、解説員の話しを聞きメモをとりながら勉強していました。

その成果が実り、秋までにはかなりの人たが解説員として一人だちし育ってきました。

日曜・祝日は、ボランティア協会会員が自然観察会を仕切ってくれるので助かりますが、平日の団体等からの要請がある場合、私を含め職員が対応しなければなりません。最初は汗をふきふき行なっていましたが、回を重ねるうちに度胸がつき、参加者より私の方が知識があるとの思い込み、そして知っていること以外は話さないと割り切って解説をしています。

参加者のなかには、かなりの物知りがいますがそのような方には一緒に解説をお願いすることもあります。

一番困るのは、小学生が相手の時です。子供達は話しが面白くないと私語が多くなり、先生がいくら注意しても止めません。この頃は子供の顔色を見ながら、解説する技術？も覚えました。時には一緒にドングリ拾いや秋グミを食べながらの解説もあります。

職場の先輩でもあります俵浩三（道専修短大教授）さんが、私にかって云われ

た言葉があります。それは「講習会、研修会で講義する場合、自分の持っている知識の２～３割程度の話しをするようにしなさい。そうすると講義の内容が濃密になり、受講生等は良く聞いてくれます」誠に含蓄のある言葉で、子供達を相手の観察会には必ずこの言葉を思い出しますし、私ももっと勉強して子供達に飽きられないような解説をしなければと心掛けていますが、なかなか出来ません。

また、自然解説は慣れが第一と思います。ボランティア・レンジャーのなかには、解説が苦手という方がいるかもしれませんが、観察会等に積極的に参加し、解説技術の向上に務め、自然との橋渡し役として活躍されることを期待しています。

最後に、北海道ボランティア・レンジャー協議会のますますのご発展と、長年に亘り協議会会長として協議会の運営にご尽力くださいました河村千束さんのご冥福を、心よりお祈り申し上げます。

（江別市在住）

お　知　ら　せ

★　環境週間行事「野幌自然観察会」について

４月２０日に役員会を開催し、平成４年６月７日（日）に当協議会が主催する環境週間行事の『野幌自然観察会』について、その開催時間と下見を次ぎのように決定しましたので、会員各位の参加をお願いします。

記

◇　環境週間行事「野幌自然観察会」

平成４年６月７日（日）一般参加　　９：３０～１２：３０

ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･ﾚﾝｼﾞｬｰ９：００～１３：００

「森の自然教室」（百年記念塔下売店）前集合。小雨決行。

◇　環境週間行事「野幌自然観察会」下見

平成４年５月３０日（土）　１３：００までに「森の自然教室」前集合。小雨決行。

※　参加の有無について、広報部佐々木幸夫（〒札幌市白石区川下5条2丁目4-32 ☎011-875-6602）にご連絡ください。

三笠市　岩間美秀

昨秋当別道民の森の講習よりボランティア・レンジャーの仲間に加えさせていただきました。　自然保護についていろいろ学びたいと思いますので御指導お願いいたします。

私は１０年程キノコに興味を持ち学んでいますが、最近菌類と自然界の関わりについて多くの人達に知って欲しいと思っています。

自然食ブームのせいか秋にはキノコ採りの人がワンサカと野山へむかわれますが、自分の知らないキノコは皆毒キノコと思ってか？ハデな色や変わった形の物は無残にも踏みつけられているのを見掛けます。

たとえ、毒キノコであったとしても見たり触れたりしただけで害はありませんから静かに見守って欲しいのです。彼らにも自然界では大切な役割を受け持っているのですから・・・　キノコを大分すると共生菌と腐敗菌に分けることが出来ます。

※共生菌（樹木と共生関係にある）タマゴタケ・イグチの仲間

※腐敗菌（樹木や枯れ木、落　葉、落　枝、を腐敗させる）

ナラタケ・ヒラタケ・シイタケ・ナメコ等の養殖キノコがこの仲間

このようにキノコ一つ一つに樹木を育てたり、不要な物質を腐敗させ土壌にかえさせる還元者の役割をはたしているのです。食べるばかりではなく色、形、生態にも興味をもち、花や小鳥と同様にキノコ達にも愛が欲しいのです。

追伸　菌類の研究も日毎進んできています。以前は食菌であったものが最近なって毒菌になったものもあり、最新の情報を知る必要があります。

・ツチスギタケ・・・要注意・佃煮にすると良い・・私命中しました。

・ウスタケ　　・・・　〃　　バター焼きで食べ脱糞やのごとし

・コガネタケ・・・・　〃　　サッと湯通し刺身・３時間後吐き気と激下痢

ウスタケ・コガネタケともに中毒例ありとなっていました。キノコ全般に言えることは、多食・生食（半生はだめ）には、気をつけよう！

道民の森、神居尻山に登って見ませんか

当別町　五十嵐　一夫

皆さん始めまして。私、第10回ボラレン育成研修会に初めて参加させていただきました登山、高山植物関係限定免許のボラレン一年生です。鳥や木やその他諸々についてはこれから勉強しなければなりません。というわけで今回は皆さんに手ごろな登山のオススメです。

平成２年の道民の森一部オープンと同時に神居尻山(947m)に新しく登山道が整備されました。ＡＢＣの３コースありますが私のオススメはＣコースで登ってＢコースで下山。何度も登りましたがこれが一番です。札幌から道民の森までは車で１時間30分から２時間ぐらいです。それでは登ってみましょう。

総合案内所前の駐車場に車を停めて少し戻ると左に車止めの付いた道民の森の管理道路があります。ここから入ってＡコース、Ｂコースの登山口を通りすぎしばらく歩くと町営牧野からの道が右側から合流します。さらに進んで小さな沢をこえ左カーブの道を登ったところにＣコースの登山口があります。総合案内所からここまで20分です。

登山口からいきなり急な登りですが、息があがらないようにゆっくりと登っていくと、一汗かく頃に最初のベンチがあります。(469m)　ここで座って後ろをふりかえってみると始めてみる人はゴルフ場と勘違いするかもしれませんが眼下に当別町の町営牧野が広がっています。その奥には青山ダムも見えます。何カ所か階段を上って段々と高度をかせいでいくとやがて森林限界の上に842mのピークが見えますが頂上ではありませんので間違えないように。

このピークまで登ると初めて頂上が見えます。少し先のＢコースとの合流点にもベンチがありますから最後の登りの前に息を整えましょう。ここから頂上までは登山道の右側が三番川の源頭までスッパリと切れ落ちていて低い山のわりにはなかなかの高度感があります。右前方にピンネシリ山(1100m) を眺めながらひと頑張りで頂上です。晴れていれば頂上からの眺めは最高です。石狩湾から積丹半島、増毛山塊の浜益岳、群別岳、暑寒別岳、南暑寒別岳。

遠くに大雪山系も見えます。広大な石狩平野とその真ん中を蛇行して流れる石狩川、その奥に樽前山、恵庭岳、空沼岳と 360° のパノラマです。ただ頂上はちょっと狭いのでそのままＡコース方面へ下ります。立派な避難小屋があるのでここで休みましょう。帰りはまた頂上を通ってＢコースとの合流点まで戻ります。ここで登りとは別の右側のＢコースを下ります。右手に頂上を見ながら尾根づたいに下っていくと、そろそろ飽きてきたなぁと思う頃にちゃんとベンチがあります。(700m)　尾根歩きはここで終わりで、今度は斜面を一気に下ります。ロープも付いていますがかなり急な斜面なので、足を滑らせないように慎重に歩きましょう。坂が緩やかになると森がすこし開けて明るくなります。登山道脇の立ち枯れした木にツタウルシの巻き付いているあたりは、紅葉の時期にはとてもきれいなところです。ここまで来るとＢコースの登山口はすぐそこです。登山口からはまた管理道路を戻って駐車場に到着、おつかれさまでした。登りに１時間30分から２時間、下りは１時間10分から１時間30分です。

珍しい高山植物は見つけられませんでしたが、ミヤマオダマキやハクサンイチゲの群落はきれいです。それから春先には登山道のあちこちにアイヌネギとカタクリがあります。特にカタクリは最初は踏まないように気にしますが、そのうち踏まずには歩くことが出来なくなるほどの多さです。こんなことを書いてしまうとまた盗人がやってきて根こそぎというよくあるパターンとも思いましたが、皆さんはボラレンですからそのへんはわきまえていらっしゃると思います。いや信じています。ダイジョウブですよね。

時間があれば道民の森でのんびりされてはいかがですか。日曜、祝日には売店が開いていますから道民の森のマスコットのフクロウグッズも売っていますし、木炭と肉の販売もやっていますのできれいな空気の中でジンギスカンや焼肉とシャレてみるのもよいでしょう。今年からはサイクルセンターで散策用に自転車の貸出もするそうです。

最後になりましたが、今年の道民の森の催しの計画を入手しましたので、紹介しておきます。日程については変更があるかもしれませんので参加するときには事前に確認されたほうがよいと思います。

平成４年度　道民の森催事計画

5/3~10/25 自然観察会　（日、祝日のみ）集合　総合案内所前　11:00、13:00
森林内を散策しながら、四季の自然・森林とのふれあいを楽しんでもらう。

5/17（日）森林とのふれあい－愛鳥教室－　集合　総合案内所前　10:30
50人　森には多くの野鳥の姿が見られます。さえずりを聞きながら、巣箱かけや生態を観察する。

6/7　（日）植樹の集い
1200人　住民自らが、緑づくりの一歩となる植樹の体験を通じて森林の大切さを知ることにより、緑化思想の高揚と啓発を図る。

6/21（日）森林とのふれあい－森林浴登山会－　集合　総合案内所前　9:40
100人　森林浴を楽しみながら登山する。体力に自信のある方は神居尻登山、ファミリーでも気軽に参加できるファミリー登山の２コースを説ける。

7/5　（日）森林学習会－薬草薬木を調べよう－　集合　牧場南案内所前　10:30
50人　身近に生えている草や木にも立派な生薬名のついた薬草がたくさんあります。これらの薬効・飲み方・食べ方を学ぶ。

7/26（日）森林とのふれあい－ オリエンテーリングの集い－集合道庁赤レンガ正門前9:30
50人　森林・樹木などにかかわるクイズに挑戦しながらオリエンテーリングを楽しみ、森林とふれあう。

8/3~5　森のサマーキャンプ　集合道庁赤レンガ正門前9:30
（月～水）　自然学習会など森とふれあいながら、登山やキャンプ体験をする
50人

8/23（日）森林学習会ー渓流を楽しむ集いー　　集合　総合案内所前 11:00

50人　　森には多くの渓流があり、そこには調和した生態があります。この渓流を歩きながら自然の生態を学ぶ。

9 月下旬　育樹の集い

300人　　住民自らが、森林の手入れを体験し、緑を育てていく大切さを知ることにより、林業に対する意識の高揚と啓発を図る。

9/27（日）キノコ観察会　　集合　総合案内所前 11:00

100人　　森林浴をしながら、キノコの見分け方や料理方法を学ぶ。

10/10(祝) 森林とのふれあいー紅葉登山会ー　　集合　総合案内所前　9:40

100人　　そろそろ樹木は冬ごもりの準備に入ります。紅葉や草花の実を観察しながら、秋の自然を楽しむ。

佐幌小学校の小鳥の村活動

新得町　　朝倉　勝

平成３年度の第８回、丸瀬布町の研修会に参加し会員の仲間入りをさせてもらいましたが、さっそく原稿依頼が来ましたので、勤務校での地域の自然を生かした「小鳥の村活動」の概要を紹介します。全校児童は、２５名の複式校です。

１．巣箱作り

３月。父親参観日に親子で一緒に巣箱を作ります。６年生は、次年度新一年生の分を作成します。できた巣箱には、番号・名前を書き込みます。

形や穴の大きさや止まり木などの工夫・親子のふれ合い・夏鳥への期待などで温かい雰囲気に包まれます。

２．小鳥の村開き（巣箱かけ）

４月。「私の巣箱でかわいいひなを育ててください」という願いを込めて校庭の木に一人１個の巣箱をかけます。「発見だ　野鳥に学ぶ　佐幌っ子」をスローガンとし、今後の継続観察につなげます。

観察にあたっては次ぎのことをします。

（１）観察カード「わたしは小鳥の発見博士」に、発見や気づいた事を記入し、集会で発表し、摸造紙にはり掲示します。

（２）巣箱調べ一覧表の作成。番号・氏名・向き・入口の大きさを記入します。観察チェック項目は、巣箱に入った・巣材を運んだ・えさを運んだの３項目です。最終チェックは、利用結果・巣材の種類の２項目です。

今年度の利用率は２４／２６で９２％でした。巣箱の中でひなにかえらなかったニュウナイスズメの卵が２個、コムクドリの卵が２個ありました。前年は、ニュウナイスズメのひなが３羽巣箱の中で死んでいました。自然の厳しさや生きることの大変さが伝わってきます。

（３）佐幌の野鳥一覧表の作成。１年間で４１種類を確認しました。観察月日・野鳥の名前・発見者・図鑑のページを記入します。

（４）事故死の野鳥観察。名前あてや体重あてなどクイズ形式で無関心層への働きかけをます。保存は一日程度。即刻対応します。

（５）羽の観察と掲示。ネコがとってきた鳥や事故死の鳥の羽１２種類の識別ができました。

３．小鳥の村おさめ（巣箱おろし）

夏の小鳥の村おさめをします。「巣立ちを喜ぶ　野鳥のふるさと　佐幌っ子」をテーマとし、

（１）春からの活動のふりかえりと巣箱の中でのドラマを想像します。

（２）巣箱の中を観察します。ニュウナイスズメとコムクドリの利用のあとが巣

材からわかります。利用率は前述の通り９２％という高いものでした。
中を見る時の喜びや驚きの声から野鳥とのかかわりの深さを感じます。

（３）それらの鳥はどこへ。渡りについて考えます。小さな体に秘めた不思議な力に驚きます。

（４）創作ダンスをします。わたり・巣作り・子育て・巣立ち旅立ちの４部形式です。

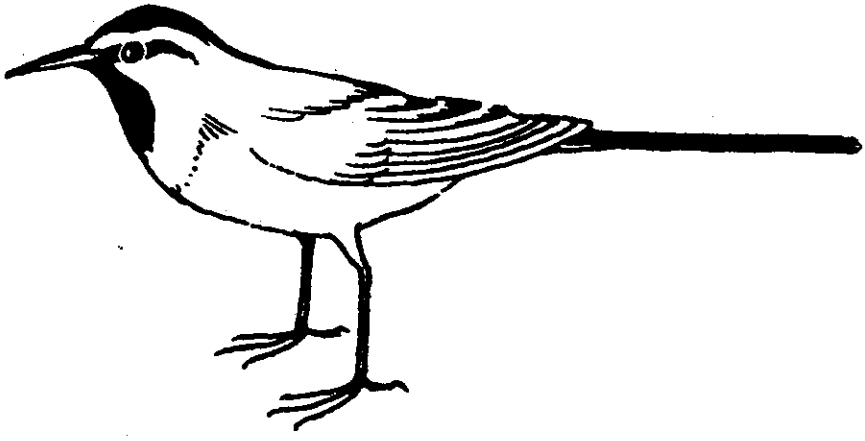
４．冬の小鳥をよぼう

各班１個で４つのバードテーブルを設置します。農園で収穫したヒマワリやトウキビを与え、厳しい冬のえさ不足に協力し、野鳥との交流を深めています。

観察カードに記入したり、５分間に来る鳥の種類や数を調べます。５・６年生が中心となり、４つのたてわり班で調べます。

野鳥の行動への関心や識別能力が高まっています。

この活動を通し、（１）自然の見方・考え方・感じ方を深め、（２）子どもの感性を磨き、（３）野生の本能の不思議さやすばらしさを感じ、（４）自然の厳しさや生きる事の大変さを知り、（５）自然愛護の精神を育てたいものだと思っています。



野幌森林公園「冬の森林観察会」－3月1日－

札幌市　小渕　修子

・「みなあかき冬芽ふくらむ森日かな」

三寒四温の現象が顕著な時期の３月１日、「冬の森林観察会」は運よく好天の日にあたり、樹々が目覚めたばかりの「森林の素顔」にふれて、観察を楽しみました。

・このところ、暖冬つづきで雪解けが早くなっていますが、今年もまだ２月末というのに気温が＋７.４°まで昇り、翌日のこの日も＋３°と、一気に春が近づき冬芽が一段と膨らんでいました。

とくに、大沢コースから桂コースに入る曲がり角にあった大樹のキタコブシは、毛皮のコートを今にも脱ぎそうに、すでに指先ほどにまで膨らんだ芽を見事にたくさん付けて枝は空をはっていました。

「キタコブシの花が多いと豊作」「閏年に凶作なし」の言い伝えを思い出して、「今年は恵み多い年」と予測してみたりしました。

しかし、前日のお天気から一転、３月２日は冬に逆戻りして吹雪となり10センチもの雪積がありました。早めに芽を脹った木々が気掛かりですが、自然の厳しい試練を受けて更に力強く芽吹きの準備をしていることでしょう。そして、「地球の温暖化よりこの寒気の方が平気」との木々のさやきが聞えそうです。

・「春を待ち樹上の種子の懸かりおり」

大沢口の入口のイヌエンジュに豆果のさやがさがり、風にゆられて雪解けを待っています。

森林を見ていくと昨年の実が付いている木がずいぶんとたくさん見あたります。キタコブシ、ホウノキ、シナノキ、オオバボダイジュ、ケヤマハンノキ、ツルアジサイ、ノリウツギなど、多くの木が枝に種を残して、強風にも飛ばされず、寒さにも耐えて木にへばりついています。“種子は樹の上で越冬するのだ！”大きな驚きでした。親木が種子を愛しみ強い絆で守り冬を越すことが出来たのでしょう。
生存のための仕組みの魅力に引かれてしまいました。

すでに秋に落ちた実や雪上に落ちている種、まだ時を待って枝にしがみついている種など、時間をかけて繁殖に適した場所に落ちるようにと、環境を選んで種蒔きをしているにちがいありません。

ごくあたりまえのことでも認識していないことがたくさんありますが、たまたま、気付いた時の知る喜びはまたかくべつです。
いままで見過ごしてきたことや気付いていなかったことを、一つひとつ体験の中で学んでいこうと思います。もっと探究心と好奇心を持ち自然にふれ、心楽しく過ごしたいものです。

・「糸ひいて移るヤドリギ風まかせ」

今回の観察会では、ヤドリギの糸を引いた種子がミズナラの木に落下していく神秘的な繁殖のスタートを目撃しり、クマゲラの彫りたての穴に出会たりの森に繰りひろげられるドラマに感動し、なによりも前回の参加者との再会で「野幌森林公園の虜になった」と言う言葉に励まされた一日でした。

『釧路からの便り－その１』

本協議会会員で、一番の年長者と思われる釧路の伊藤竜一さんから、本年の３月上旬のある日、分厚い封書が届いた。

その中味は、釧路市の市民講座として平成元年度に「釧路湿原講座」が開かれ、それに参加された受講者による班単位の学習日誌であった。

伊藤さん自身のコメントはないが、多分「このように釧路湿原講座を受講しその内容もよかったので、私たち協議会会員にもこの学習日誌のなかから釧路湿原を認識したら……」という意味を持っていると理解して、会報第２１号と第２２号の２回に分け、その受講内容の概略と記録者の感想の一部を編集し、掲載することにした。

学習日誌に入る前に、釧路湿原について若干の触れよう。

湿原の区域は釧路市．釧路町、鶴居村．標茶町の１市２町１村にわたり、その面積約２６８６１ｈａ。この３月の始めに世界自然保護基金（ＷＷＦ）総裁の英．エディンバラ公も釧路湿原を視察されたが、国際湿原条約（ラムサール条約）の登録湿原に指定されており、来年はラムサール条約釧路会議が開催されるなど国際的にも脚光を浴びて来た。

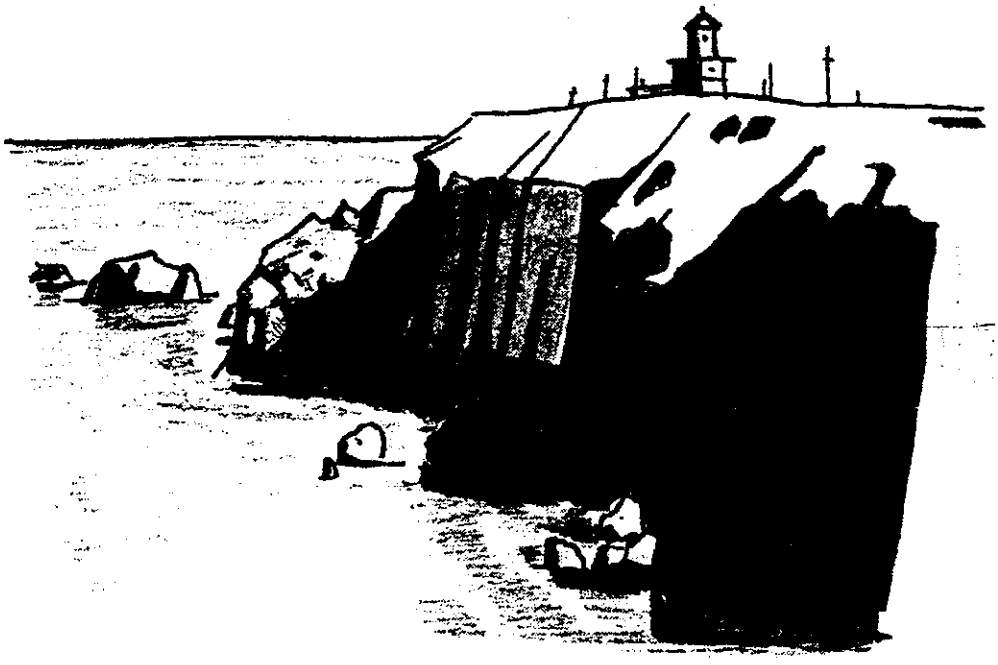
釧路湿原は、国内最大の湿原であり国の天然記念物、鳥獣保護区に指定され、さらに１９８７年７月に我が国最後の国立公園として第２８番目の指定を受けた。

そもそも湿原については、北海道環境白書９１から引用すると、自然環境保全対策の推進のひとつとして、自然地域の保護と利用の推進の中に、湿原生態系保全の推進なる項目があり「本道の豊かな自然を象徴し、多様な動植物の貴重な生息環境としてきわめて重要な湿原の生態系を保全するため、関係機関．部局の連係のもとに、総合的な保全管理のあり方及び具体的な保全技術等について、検討を進める」と、その重要性を道環境行政の立場から公表している。

とくに、釧路湿原では、特別天然記念物のタンチョウをはじめ、氷河時代の生き残りといわれる遺存生物が分布し、亜寒帯の自然といわれる湿原を特徴づけている。

もちろん地元釧路市では、市民の理解と認識を深めるためにこのような「釧路湿原講座」などを開いていることだろうが、私たち協議会会員も、単に

釧路としての位置づけにとどめず、地球の宝としての理解．認識に立つべきだし、伊藤竜一さんがこれらの学習日誌を送ってくれた意味も、そこにあるのではと判断したのである。



霧多布岬

学習日誌　6月8日（木）　天候　はれ

テーマ　**釧路湿原の鳥**　　講師　釧路市立博物館学芸員

◎　果てしなく続く緑の原野の世界、派手さはない。しかし、人間が手を加えていない貴重な自然が息づいている釧路湿原なのだ。

夏の湿原は、動物のパラダイスである。日本で見られる野鳥５００種のうち、この湿原で１６０種以上が生息し、それぞれ四季を通じて観察されるものや、繁殖の渡り鳥、越冬などなど生息適地で生活している。

これらの鳥類は、1.０００種以上の昆虫・エゾシカなど２６種の哺乳類・３４種の魚類・６００種以上の植物と共棲しているのである。この素晴らしい湿原という自然が破壊され、環境が汚染されないよう努力したいと思うし、このか弱い自然とつきあう方法を見出すためにも湿原講座の意義があると思う。

◎　スライドの主な内容

タンチョウ

昭和１０年、国の天然記念物。昭和２７年、特別天然記念物に指定される。

江戸時代には多く生息していたが、北海道開拓の進行と乱獲により一時絶滅したいわれていたものの、その後の調査で１０数羽の生息が確認され今日にいたっている。※（１９９２年1月２４日（金）現在調査数５５７羽）

生態とくに人間とタンチョウの共存について、今後論議され戸籍作りも必要になると思う。

クマゲラ

昭和４０年、天然記念物に指定。ヤチ坊主で蟻を捕食する。巣の中は大きく、卵６箇くらい育てられる広さ。ハンノキは、細くて営巣できない。

オジロワシ

昭和４５年、天然記念物に指定。翼長成鳥で約６５ｃｍ。海岸・河口・湖沼に棲み、鳥や哺乳類を襲う。

オオワシ

昭和４５年、天然記念物に指定。（知床が有名）

オオハクチョウ

全長成鳥で１５５ｃｍ。４００～５００羽の集団。

ヒシクイ

昭和４６年、天然記念物に指定。菱の実を食べることから命名。大昔、食料にしたという。全長成鳥で１００ｃｍ。

シマフクロウ

昭和４６年、天然記念物に指定。フクロウ類では日本一の体長成鳥で約７０ｃｍ。村を支配する神とアイヌが崇めた。

アオサギ

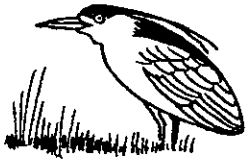
全長成鳥で４５ｃｍ。北斗の営巣は日本一で、３７２巣が確認され総数も約1.０００羽と推定されている。卵は２４～２７日で孵化する。

カイツブリ

池沼など、静かな江湾に棲む。潜水が得意で、水中の小動物を捕る。巣は水上に水草で「浮き巣」を作る知恵がある。

その他

・メジロ・ツグミ・ジョウビタキ・ヒヨドリ・ウグイス・ウソ・コマドリ・シメ・モズ・ヒワ・キジバト・センダイムシクイ（ツルチヨギミーと鳴く）・オオジュリン・ヒバリ・カワセミ・アオジ・アカハラ・イカル・キビタキ・カッコウ・アマツバメ・アカゲラ・コゲラ・ゴジュウガラ・シジュウガラ・ノスリ・スズメ・ハシブトカラス・オオバン・ミコアイサ・ホオジロガモ・キンクロハジロ・コガモ・ホシバジロ・ハビロガモ・オナガガモ・ヨシガモ・ヒドリガモ・カルガモ・オシドリ・オオハクチョウ・ダイサギなど。



◎　講話を終えての感想

・湿原に生息する鳥類を中心に学習したが、生態観察も必要であると思った。
また、渡りの条件についても興味を深めていきたい。
・６月１１日（日）の探鳥会では、姿が見えなくても鳴き声で探鳥ができる。
・資料は内容が豊富です。大切にし、各方面で活用させてください。

◎　資料「湿原の鳥」

§　湿原周辺雑木林　　６０種生息、うち４９種繁殖
§　湿原周辺草原　　３６種生息、〃　１９種繁殖
§　湿原周縁低木林　　３２種生息、〃　２２種繁殖
§　湿原内しょ水林　　１８種生息、〃　１６種繁殖
§　ヤチ坊主・ハンノキ林　４０種生息、〃　３１種繁殖
§　高層湿原　　１５種生息、〃　１０種繁殖
§　河川・湖沼　　４１種生息、〃　１３種繁殖
§　釧路川堤防　　２５種生息、〃　１１種繁殖

６月１１日（日）

テーマ　釧路湿原の鳥（探鳥会）　天候　快晴　講師　釧路野鳥の会メンバー

◇　定刻の午前４時３０分に出発。早朝にもかかわらず、参加者一同元気で張り切っている様子が伝わってくる。車内での挨拶、講師の紹介に続きＮＨＫ制作「野鳥入門」のカセットテープを聞く。収録されている野鳥４０種で、大部分は、湿原（釧路）に生息する。観察地はシラルトロ湖だが、その途中山霧で彼方がかすんでいたり、草地が朝露に濡れて朝日を受け美しく輝いているさまや、アオサギが岸辺で餌をとっている様子が車窓から眺められる。

目的地の湖岸は霜のためか、タラノキの芽が被害を受けていたり、草原の朝露が靴を濡らしたが、太陽が昇るにつれ私たちの行動も容易になってきた。

◇　観察された野鳥

アカエリカイツブリ・アオサギ・オジロワシ・キジバト・ハオリアマツバメ・ヤマゲラ・ハクセキレイ・コヨシキリ・センダイムシクイ・ゴジュガラ・カワラヒワ・スズメ・ハシボソカラス・キンクロハジロ・タンチョウ・カッコウ・アマツバメ・アカゲラ・ノゴマ・エゾムシクイ・ハシブトガラ・シマアオジ・ベニマシコ・コムクドリ・ハシブトガラス・ヨシガモ・トビ・オオジシギ・ツツドリ・カワセミ・コゲラ・シマセンニュウ・キビタキ・シジュウガラ・アオジ・ニュナイスズメ・ムクドリ・コハクチョウ

※　講師の確認ですので、一般参加者はどの程度確認されましたか。また、声を聞いても姿の見なかったものもあります。

◇　とくに観察を通じ印象深かったこと

１．タンチョウの雄は、一声大きく鳴く。
　　〃　　雌は、二声雄より小さな声で鳴く。
２．キンクロハジロは潜水し捕食するが、約２５～３０秒も潜っている。

3．ハシブトガラスが鳴く時は、尾がさがる。ハシボソガラスは頭がさがる。
4．ハヤブサは、空中でトンボを捕食する。
5．トビが飛ぶ時、はねは の形。オジロワシの場合は の形で見分ける。
6．アオサギは魚を丸飲みにする。北斗から捕食にとう路・パシクル・春採の湖まで飛んでいく。
7．カッコウは、とくにコヨシキリの巣に卵を産む。カッコウは雛が成長しないうちに渡りをする。
8．トビは、羽がわりをし、一本づつ生えかわる。

◇　今回の探鳥会は、素晴らしい天候に恵まれたこともあり高い評価をしたい。その大きな理由は湿地の鳥と山地の鳥たちに会えたからです。

湿原サミットが開かれている時でもありが、湿原の保全は世界共通の願いです。わたり鳥条約を通じた渡り鳥の保護、ワシントン条約に基づく動物の保護と売買の禁止そしてラムサール条約の水鳥の保護などこれらのことは、自然との調和であり人類共有の財産である。と宣言しています。

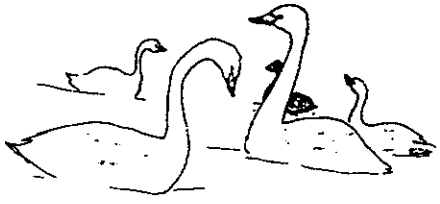
この精神を、私たちは湿原や探鳥会を通し学習できました。講師の先生がた、ご指導ありがとうございました。

☆　あちこちと聞いたり観たり学びあう
釧路湿原　探鳥の集い

☆　そよ風が樹々の葉うらをゆるがせて
釧路湿原　かすみて遠し

（西川　利隆　さん記）

釧路市伊藤竜一さんからの資料により編集しました。伊藤さん、ありがとうございました。　（広報部）



早春のあしあと

江別市　　八　戸　克　美

三月も２０日を過ぎると、春も足早やにやってくるような感じだ。その三月に入ってから、新聞紙上で２～３印象に残った話題を紹介します。（会員のなかで読まれた人は勘弁してください）

☆　水鳥の飛来過去最高　☆

今冬、シベリア方面から日本に飛来した水鳥は過去最高の数に上がっていることが、環境庁の集計で３月１９日分かった。

調査は、１月１６日を中心に全国７４８４ヵ所で実施。観察されたのは、ハクチョウ類、ガン類、カモ類計１．９６８．０００羽で、昨年より１５％も増えている。地方別では、ハクチョウ類は２７、ガン類は２１の都道府県で見られた。最も多く飛来した県は宮城県であり、カモ類は全都道府県で観察され、最高数は新潟県（水原町ひょう湖）で確認された。

☆　クロケアシノスリ　☆

アリューシャン列島などに生息する猛禽類の一種「クロケアシノスリ」１羽が先月（２月）中旬に、青森県上北郡百石町で観察されたと日本野鳥の会が３月１９日発表したが、国内で観察されたのは初めてのことだそうだ。

「クロケアシノスリ」は、北方系のタカの一種「ケアシノスリ」の亜種。成鳥の大きさは翼長約４５ｃｍであり、観察したのは青森県三沢市の日本野鳥の会青森県支部会員の安藤一次さん（３９）。

☆　コンパス・プラント　☆

都会でも普通に見られる木から、東西南北の方位がわかる。意外と思われる方も多いだろうが、早春に花を咲かせるモクレンやコブシ・ヤナギなどの蕾で、方位がわかる。これらの花は早春になると急激に開花の準備をするが、暖かい光りを受ける南側の生長が早いため、蕾の先が「北」の方位を指して曲がるからである。

このように方位を示す磁石の代りになる木のことを「コンパス・プラント」（方位指標植物）と言っている。

近所のモクレンやコブシの花で観察し、蕾の膨らみの様子や枝先が曲がって行く様子に注目してみよう。

もし、磁石の持ち合わせが無い場合、時計を使って方位を調べる方法もある。デ

ジタル時計では駄目だが、アナクロ時計の短針を太陽の方向に合わせ、文字盤の１２との角度を二等分した線上の延長が「南」の方位を示す。こんな方法が精密な磁石を使う方より、自然観察として雰囲気があるのではないだろうか。

また、昔の人はゴブシやタムシバなど早春に咲く花の蕾の膨らみ具合を見て、種蒔きなどの農作業を始めたと言う。このように自然から学んだ生活の知恵は何時までも大切にしたいものだ。　（矢野亮氏の記事より）

観察された「クロケアシノスリ」（安藤一次さん撮影）

つぼみの先が北を示すハクモクレン＝撮影・筆者

☆　マツタケががんに効く　☆

「細胞殺す蛋白（んぱく）質発見」マツタケからがん細胞を殺すたんぱく質を見つけた。と、農林水産省食品総合研究所蛋白質研究室の河村幸雄室長（茨城県つくば市）らと桃屋（本社・東京都）の共同研究グループが発表した。単独のたんぱく質の発見は初めて、たんぱく質だと遺伝子組み換え技術で微生物に大量生産させることが出来、将来抗がん剤としての利用が期待されるという。

ＳＶ４０というがんウイルスは、人の子宮頚（けい）がんを引き起こすヒトパピローマウイルス１６型と同じメカニズムで、細胞をがん化させることで知られている。

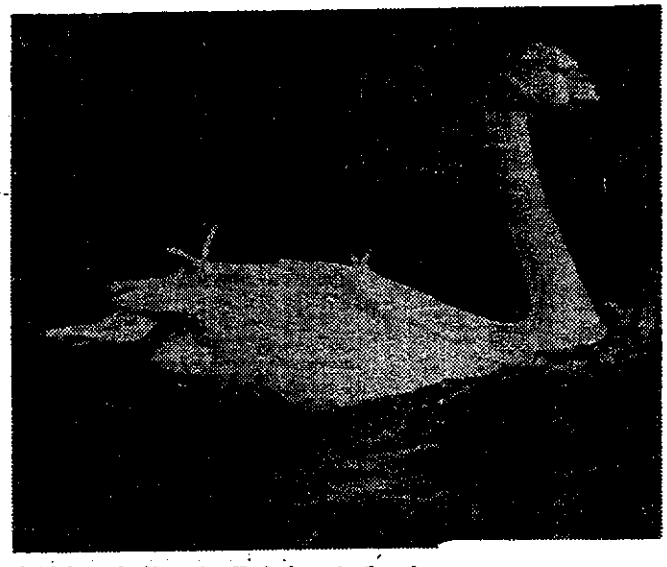
マツタケの水抽出物を、ＳＶ４０というがんウイルスでがん化したマウスの繊維芽細胞に使うと、正常細胞に障害が少なくがん細胞を選択的に殺すことが判明した。

河村室長は「このたんぱく質は、人のがんにも同様に効く可能性が高い」とみて、人のがん細胞での実験を進めている。

☆　嘆きのオオハクチョウ　☆

千歳川（千歳市街地）に飛来しているオオハクチョウに、川釣りで投げ捨てられたとみられる釣り糸が絡みつき、苦しんでいる。今回のケースは約１ヵ月前に、群れ全体の動きから遅れて行動している１羽のオオハクチョウを付近の住民が発見した。右足付根部分から翼にかけて、ヤマベ釣り用のテグスが巻き付いていた。テグスの先の重りを引きずったままで、泳ぐ時も全く右足が使えない状態である。

ハクチョウをはじめタンチョウやカモなどがこのような被害に遭っているということが道や支庁への通報が最近、全道的に増えている。保護するこ７とが出来れば、動物園などに送って回復期間を経て、再び自然に返しているが「相手が野生生物なので、簡単には捕まえられない……」と必ずしも救済作戦は成功していないという。釣り針や糸などの投げ捨てを規制する法律もないため「釣り人や狩猟をする人たちのモラルに訴えるしかない」と話している。



右足をひきずっているオオハクチョウ

高等学校における「自然観察」試論

札幌市　　小　山　賢一郎

＜はじめに＞どのような活動が考えられるか

教育現場では、教科活動以外に特別教育活動と教科外活動があります。「自然観察」は教科外活動のなかの部活動に属します。部活動は、教科活動（授業）の終了した放課後および日曜日・祝日など、生徒の自主的な活動を見守る（指導の）範囲において行なわれるものです。

私の勤務校では「自然観察同好会」と称して部活動を行なっていますが、北海道の高等学校において「自然観察」を主たる目的とする部活動が行なわれているかというと、私の乏しい情報の範囲では全く知りません。その点から非常に珍しく希有のことであるだけに、貴重な存在でないだろうかと考えています。

ここで－生物－と「自然観察」の相違について、私の考えを簡単に述べますと－生物－は教科の理科の一分野であり、対象となる例えば植物・昆虫・その他の採集・飼育・標本づくり時には解剖などの研究活動がともなうことでしょう。しかし、「自然観察」は自然保護という側面が大切な事柄なので［注、生物がこうしたことに無関心であるとか、無関係であるとは考えませんが……］採集・飼育・標本づくり・解剖などの研究活動は否定されるものではないとしても極力さけ、仮に可能であっても最小限度にとどめ、むしろ観察した事柄のスケッチ、写真などによる記録にとどめるべきであろうかと思います。しかしながら教育活動の一環でもありますから、観察して自然に親しむという世間一般で行なわれている「自然観察」の活動と同じであることが必ずしも理想ではないと思います。やはりそこには観察から研究活動へ一歩すすめて－調査－　Ｓｕｒｖｅｙ という段階があろうかと考えます。

＜具体的な活動の状況＞

「自然観察同好会」は人数がきわめて少なく、満足すべき活動状況にはありませんが、生徒数名と顧問の二人三脚で行なっているのが実態です。それを昨年の二つの活動分野で示してみます。

まず、その一つは、一年生の二人の生徒による富良野岳の植物の植物について調べた内容ですが、宿泊研修の中心をなす－登山研修－の計画に合わせ、忙しい最中に取り組んだ結果です。

研究方法、整理方法などは話し合いですすめ、草本と木本の分類、参考文献などの掲載は顧問が手伝って完成したものです。富良野岳に限定した高山植物の研究書が一般に刊行されていませんので、二人の生徒の活動は、非常に大きな意味をもっていると言えるのではないでしょうか。　注、資料：富良野岳の植物

つぎに、「ポプラ」という会報にも記述されている学校付近の自然林の生態調査です。

ここは、日本海沿岸の内陸砂丘の痕跡が認められる紅葉山砂丘のはずれにあたり、自然林はその景観のごく一面をかろうじてとどめているところです。ここが宅地化の影響でいつ消滅するかも知れないという危機意識が調査のきっかけでした。現在5回目の調査まですすんでいますが、その内容の紹介は紙面の関係で省略します。さらに調査を継続していく考えです。活動への意欲は、昨年発行の会報「ポプラ」から読み取っていただければ幸いです。　注、資料：「ポプラ」

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆　お願い　☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

――北海道ボランティア・レンジャー協議会の入会申し込みと会費の納入について――

本協議会の入会は会則（第５条）により、会費の納入によって入会申し込み及び新規・継続会員としての手続きがされたものとします。

会務執行の都合もありますので、なるべく早く納入くださるようお願いします。

なお、事業年度は会則（第１５条）のとおり、８月１日から翌年７月３１日までです。

会費は３,０００円です。

『郵便振替口座』

番号　小樽　８－２１４４２

名称　北海道ボランティア・レンジャー協議会

現金の納入やその他不明な点がありましたら、下記にご連絡をお願いします。

〒０６５　札幌市東区東苗穂６条１丁目８－２６

小竹数博

TEL ０１１－７８４－６２５１

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

野幌森林公園での協議会が関連している主な自然観察会

この程、北海道野幌森林公園事務所（公園利用課）で平成３年度森林観察会実績（下記）を整理しましたので掲載します。この表でいろいろなことが読みとれます。とくに、平成元年度から３年度の動きにも時代の流れがあるように思います。

平成３年度 森林観察会実績

（公園利用課）

行事名	実施月日	天候	気温℃ 12:00	参加者数 一般	ボラレン	事務所	計
				名	名	名	名
月例観察会	4月11日（木）	晴	11.1	24	3	1	28
春の森林観察会	5月12日（日）	晴	18.8	95	11	4	110
野幌自然観察会	6月 9日（日）	晴	23.4	128	15	(自然課) 4 (事務所) 5	152
月例観察会	7月11日（木）	曇	19.8	16	5	3	24
夏の森林観察会	8月 4日（日）	晴	22.4	53	13	5	71
野幌自然観察の集い	9月 8日（日）	晴	22.0	89	14	5	108
秋の森林観察会	10月20日（日）	雨曇	11.7	116	9	5	130
月例観察会	11月14日（木）	雪	4.3	17	4	3	24
月例観察会	12月12日（木）	雪	-3.5	8	4	3	15
月例観察会	1月 9日（木）	晴	1.0	10	5	5	20
月例観察会	2月13日（木）	晴	-2.4	7	6	3	16
冬の森林観察会	3月 1日（木）	曇	1.2	50	9	3	62
３年度合計	12回			613	98	49	760
	（一回平均）			(51.1)	(8.2)	(4.1)	(63.3)
２年度合計	11回			426	88	67	581
	（一回平均）			(38.7)	(8.0)	(6.1)	(52.8)
元年度合計	11回			369	42	69	480
	（一回平均）			(33.5)	(3.8)	(6.3)	(43.6)

富良野岳の植物

＜白＞

植物名	科	花の色	開花期
○イソツツジ	つつじ科	白	6～7月
○イワヒゲ	つつじ科	白	7月
○ウコンウツギ	すいかづら科	白黄	7～8月
○ウラジロナナカマド	ばら科	白	7～8月
エゾイチゲ	きんぽうげ科	白	5～6月
ゴゼンタチバナ	みずき科	白	7月
○コメバツガザクラ	つつじ科	白	7～8月
サンカヨウ	めぎ科	白	6～7月
○チングルマ	ばら科	白	7～8月
○ツガザクラ	つつじ科	白	7月
ハクサンイチゲ	きんぽう科	白	7～8月
ハクサンボウフウ	せり科	純白	8月
ハクセンナズナ	あぶらな科	鮮白	8月
ヒメイチゲ	きんぽうげ科	白	7月
○マルバシモツケ	ばら科	白	7～8月
○ミネズオウ	つつじ科	白	6～7月
ミヤマセンキュウ	せり科	白	8～9月
○ミヤマホツツジ	つつじ科	白	7～8月

＜黄＞

○アオノツガザクラ	つつじ科	黄	7～9月
イワオトギリ	おとぎりそう科	鮮黄	8月
ウサギギク	きく科	黄	8～9月
オオバタケシマラン	ゆり科	クリーム	6～8月
○キバナシャクナゲ	つつじ科	黄	7～8月
キバナノコマノツメ	すみれ科	鮮	
コガネギク	きく科	黄	
○コヨウラクツツジ	つつじ科	黄	
シナノキンバイ	きんぽうげ科	黄	
フタマタタンポポ	きく科	黄	
ホソバノキソチドリ	らん科	クリ	
ミヤマオグルマ	きく科	黄	
メアカンキンバイ	ばら科	黄	

＜緑＞

アラシグサ	ゆきのした科	淡黄	
○エゾクロウスゴ	つつじ科	帯緑	
○オオバスノキ	つつじ科	淡	
○ミヤマハンノキ	かばのき科	緑	

＜紫・青＞

イワギキョウ	ききょう科	紫	
イワブクロ	ごまのはぐさ科	紫	
ウズラバハクサンチドリ	らん科	紫	
○エゾイソツツジ	つつじ科	紫	
エゾクロクモソウ	ゆきのした科	暗紫	
○エゾノツガザクラ	つつじ科	紅	
エゾヒメクワガタ	ごまのはぐさ科	碧	
エゾルリソウ	むらさき科	碧	
エンレイソウ	ゆり科	紫	
ショウジョウバカマ	ゆり科	紅	
ダイセットリカブト	きんぽうげ科	紫	
ミヤマスミレ	すみれ科	紫	

す	み れ 科	鮮　黄	6～8月
き	く 科	黄	7～8月
つ	つ じ 科	黄　赤	6月
	きんぽうげ科	黄	7～8月
き	く 科	黄	8月
ら	ん 科	クリーム	7～8月
き	く 科	黄	7～8月
ば	ら 科	黄	7～8月

	ゆきのした科	淡黄緑	7～8月
つ	つ じ 科	帯緑白	7～8月
つ	つ じ 科	淡　緑	5～6月
か	ば の き 科	緑	6～7月

き	きょう科	紫	7～8月
ご	まのはぐさ科	紫	7～8月
ら	ん 科	紫　紅	7～8月
つ	つ じ 科	紫	8月
ゆ	きのした科	暗紫褐	7～8月
つ	つ じ 科	紅　紫	7～8月
ご	まのはぐさ科	碧　紫	8月
む	らさき科	碧	8月
ゆ	り 科	紫	5～7月
ゆ	り 科	紅　紫	6～7月
き	んぽうげ科	紫	7～8月
す	み れ 科	紫	6～7月

ミヤマリンドウ	りんどう科	碧	7～8月

＜赤・紅・桃色＞

エゾコザクラ	さくらそう科	紅	8月
オニク	はまうつぼ科	赤	7～8月
○ガンコウラン	がんこうらん科	濃　紅	4～5月
コイワカガミ	いわうめ科	紅	6～7月
コマクサ	けし 科	紅　白	7～8月
○タカネナナカマド	ば ら 科	帯赤白	7～8月
トカチフウロ	ふうろそう科	桃	7～8月
○ハイマツ	ま つ 科	紅	6～7月
ハクサンチドリ	ら ん 科	紅	7～8月
ヨツバシオガマ	ごまのはぐさ科	紅	8月

（注）1. 草本類を中心に木本類が少しある（全部で58種）
2. 大部分が高山植物である。○印は木本類

自然観察同好会制作

（参考文献）

1. 宿泊研修の栞（平成元年度版）　20頁（手稲高等学校）
2. 梅沢　俊：続「花の散歩道」　（北海タイムス社）
3. 久本　欽也：「北海道と八甲田の山々」　（山と渓谷社）
4. 鮫島惇一郎ほか：「北海道の花」（北海道大学図書刊行会）
5. 武田　久吉：「原色日本高山植物図鑑」上・下（保育社）
6. 原　高義：画文集「北の山野草」（北海道新聞社）

エゾルリソウ

ポプラ

91'2号　札幌高等　自然観

村上氏宅の蝶・蛾・甲虫類の観察（寄稿）

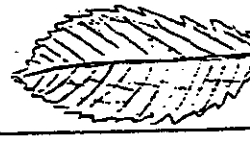
／年　小林 章浩

ボ．ガ．が　蛾だあ～～～～!!あの触覚！．あのフサフサとした胴
あの羽根！うお！！．この世で一番いやな虫！（おおげさな…）とにか
蛾ほどいやな虫はいなかった。しかし．村上氏宅で見た蛾の気持悪
ちょ違う。きれいなこと．（どうも蛾というと．気持悪いと言きたく
る）あの触覚と胴に触れることはできなかったものの．クリーム色の
じったような羽根の色や敏さおどすあの模様には感激した。（あれ
でたければなあー。）
しっかし　どうして蛾と蝶というだけであそこまでひびきが違う
ろう？不思議である．でも．やっぱり蛾はきだにがてだ．
あな情けなや…。一晩うなされたのは言うまでもない．

新川団地付近の自然林の生態調査（予報）

2年．田中 健一

顧問の勧めもあり新川団地の自然林の生態調査を始めたが，最初
と何をすべきかよくわからずにいたし，自然観察をするにあたって
程度の必要な知識が欠けているようであった。この日は生物部のM
いっしょに行ったので．自然観察同好会に入ってまだそれほど多く
験を積んでいない僕とは差がはっきりわかった。先生と話をしても
ーズにゆかず．話の意味がわからなかったりした。
二回目．三回目の調査では．大分慣れてきたみたいで．けっこう
的に作業ができたように思う。一回目よりも二回目．二回目よりも
目の方がより楽しくできるようになった。
この調査で一つ感じたことは．何事もまず一生懸命やってみるこ
大事だということだ。以前にやりたくないと思った事を聞き直って
生懸命やってとても満足したことがあったが．さらにこのことがい
しだと確信できた。



(注)・現在4回の調査を
終えた．さらに結果の報告．コマユミ　ミズナラ

1991年9月30日(月)

自然観察Q&A

顧問 小山賢一郎

Q1 はじめに

昨年の5月に発足した同好会ではあるが、その直前「自然観察と生物部は同じようなことをやるんでしょう。別々の組織でなく一緒にやったらいかがですか」とはM先生の勧めであった。また、最近も「先生！自然観察って楽しいですか」とH先生談!! 自然観察などとこと改まったしかも堅いイメージが先生方には卒直なところこうした感慨で受けとめられたのであろう。

Q&A Part1 何をどのように？

いみじくも「学校付近の自然林の生態調査」の感想をつづった田中君の文章が寄せられている。これが先生方の感慨に対する回答だと思っている

さて、顧問の私にも自然観察について定義めいたものは持ち合わせてはいない。要は自然に興味を持ち、野外に出て身近かな自然のなかに興味を感じる観察の対象に目を向けることから始めてみることではなかろうか。

興味を感じるとはいえ、自然は実に複雑であるから何を観察したらいいか迷うものだ。部活動であるから「学校の近くに観察の対象を見つけること、野鳥のようにいつもその場に居ないものはよほどの興味か関心がなければ観察には適しない」。そこでまだこの辺に残る自然林に注目した。しかも宅地化で自然林は減少しているのでいまのうちに観察し、記録に留めようと思ったのである。いわば"自然と人間の接点に注目してのことである

観察するからには一つのテーマを継続的に、しかも一回ごとに観察の目標を決めて、一歩一歩積み上げて行き、植物生態のメカニズムを明らかにする。その過程と結果のなかに"科学する心"とその歓びを体得したいという希望を持つのである。その過程では、予想（仮説）を立てその結果の如何にかかわらず事実を受容しつつ、さまざまの想像を試みるという繰り返しではなかろうか。（こうした過程のなかで自然への親しみの情操がわいてくる）

Q&A Part2 始めてみて何か？

たとえば！イタヤカエデかアカイタヤか？→イタヤカエデ、エゾノコンギクかユウゼンギクか？→ユウゼンギクなど観察と何冊かの図鑑を利用して"同定"できた。こんな時はとても歓びを感じるものである。（以上）

自然観察同好会会員募集中：入会希望者は2の2田中(健)君か小山(顧問)まで

《編集後記》・今年の第2号ができた。第1号は生徒、第2号は顧問が編集（文責）

お知らせ

平成４年度の森林総合技術セミナー「林業技術専修講座」が、道立林業試験場の主催で開かれます。

この専修講座には、林業機械・森林保護・緑化技術・修景緑化・インストラクターリーダー養成などありますが、このうちの「インストラクターリーダー養成」講座は、ボランティア・レンジャーにとって知識向上、充実を図るよい機会です。

都合のつく会員は、是非参加してみませんか。

この「インストラクターリーダー養成」講座は、平成３年度から始まり今回で２回目になりますが、１回目は佐藤健一さんの他９名のボランティア・レンジャー（当協議会会員）が受講されました。

平成４年度の専修講座「インストラクターリーダー養成」は、全道ブロック単位で５月１９日（火）から２２日（金）の４日間にわたり、美唄市光珠内町にある道立林業試験場で実施されます。

受講希望の会員は、別記の林業技術専修講座・受講申込書を活用し、直接道立林業試験場長に申し込んで下さい。

注）１．道立林業試験場には宿泊施設があり１泊３食で、料金は2.９００円（平成３年度料金）で利用出来ます。

２．道立林業試験場の住所と電話番号

〒０７９－０１　美唄市光珠内町東山

℡０１２６６－３－４１６４

３．道立林業試験場の講座担当者

主査　　総括ＳＰ　　副主査　　井谷ＳＰ（いたに）

４．交通機関

★　ＪＲを利用する場合

函館本線光珠内駅下車、道立林業試験場まで徒歩約１０分。

★　バスを利用する場合

・ＪＲ美唄駅前発中央バスの専修大学行きに乗車し、林業試験場前で下車、徒歩１分。

・バスで国道１２号沿いのバス停利用の場合は、専修大学入

口で下車、道立林業試験場まで徒歩約７分。

別記-5　　専修講座「インストラクター・リーダー養成」

講　座　内　容　と　日　程

日	時 9:00 ～ 12:00	間 13:00 ～ 17:00
第一日		《開講式》13:00～13:30 《室内講義》13:30～16:40 北海道の森林 (1)森林の生態 (2)北海道に分布する主な樹種と特性 (3)天然林、人工林の成立ちと扱い方 《場内見学》16:40～17:00 研究課題と施設内容
第二日	《室内講義》9:00～12:00 森林の公益的機能 (1)森林のはたらき (2)世界の森林と環境	《室内・現地実習》12:00～17:00 森の中での遊びと学習 (1)森の遊び(Quiz And Geme) (2)昆虫、木の葉などの標本づくり (3)木の実や枝などを使った楽しい工作
第三日	《現地実習》9:00～17:00 森の仲間たち (1)森林の取扱い　ｱ、良い木材の生産　ｲ、薬に使用できる木　ｳ、花が美しい木 (2)いろいろな山野草 (3)森の動物、鳥、昆虫など 応急手当 (1)現場での応急手当 森からの贈りもの (1)いろいろな野生キノコを楽しむ (2)いろいろな山菜を楽しむ	
第四日	《室内講義》9:00～11:30 北海道の野生動物(動物、鳥類) 《閉講式》11:30～12:00	

別記-6

林業技術専修講座・受講申込書

平成　　年　　月　　日

北海道立林業試験場長　様

（所属）

（所属長）　　印

次の講座を受講したいので申込みます。

希望する講座名（該当欄に○を付けて下さい）

1　林業機械（本場8月上旬）

2　森林保護（本場7月中旬）

3　緑化技術（道南5月中旬・本場5月下旬・道北6月下旬・道東10月上旬）

4　修景緑化（本場6月中旬）

5　ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ・ﾘｰﾀﾞｰ養成（5月中旬）

所　　属			☎　-　-		
受講者 氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ)			年齢　才	性別	男 女
受講者住所			☎　-　-		
主な職種			経験年数		
受講の時期		受講希望場所			
適 要	（講座に希望すること等を記入して下さい）				
	宿泊	前泊　1日目　2日目　3日目　4日目　（○を付す）			

――お知らせ――

会報第２０号に「１０回の育成研修会を終えて」と題して、北海道保健環境部自然保護課保全係長の三岡様から、ボランティア・レンジャーの養成、事後研修、活動の場の提供など一連の行政サービスの実態と、今後の『自然教室』に積極的に参加されるようご提言がありました。

そのような状況から、平成４年度の「自然に親しむ集い」について、北海道保健環境部自然保護課長様から本協議会会長に次ぎのように協力の依頼がありました。該当支庁から連絡があると思いますが、積極的に参加してください。

自然第１１６４号
平成４年３月３日

写

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会長　河村千束　様

北海道保健環境部
自然保護課長　高村隆夫

平成４年度「自然に親しむ集い」の実施について

自然環境の保全行政の推進につきましては、日頃から格別の御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、「自然に親しむ集い」の行事につきましては、自然環境の保全とその適正な利用に対する道民の知識と理解を深めることを目的として、貴会をはじめ関係諸団体の御協力をいただいて例年実施しておりますが、平成４年度も別添「平成４年度自然に親しむ集い実施要領(案)」に基づき実施する予定ですので、御協力くださるようお願い申し上げます。

〔主査（公園・普及）〕

平成４年度「自然に親しむ集い」実施要領(案)

１　名　称

「自然に親しむ集い」

２　実施主体及び実施期間

各支庁　平成４年４月２９日～１０月３１日

３　趣　旨

自然に親しみながら、自然の仕組みや効用あるいはその適正な利用の方法などについての知識と理解を深めることにより、自然を大切にする気風の高揚を図り、併せて住みよい環境づくりのための自主的な運動の盛り上がりを期する。

４　対象者

小・中学校生徒及び一般道民

５　実施内容

各支庁管内ごとに、市町村や関係団体等の協力を得ながら、野外自然観察会、探鳥会、植樹祭、ハイキング、登山、キャンプ、歩け歩け運動等の催しを１～２回開催し、自然環境の保全とその適切な利用について説明するとともに、野外観察の方法などについて指導を行う。

６　重点目標

1)　ゴミを持ち帰りましょう。

2)　動植物を野生のままに守りましょう。

７　広報活動

この催しの趣旨を道民に周知し、集いを効果的に実施するため、次の広報活動を行う。

1) 本　庁

この催しに北海道自然公園協会と、社団法人北海道国土緑化推進委員会及び北海道ボランティア・レンジャー協議会に対して協力をお願いするとともに、広報資料によって、市町村等関係機関に対し、この催しの趣旨を周知する。

2) この催しの実施計画を決定し、市町村等関係機関や関係団体に協力をお願いするとともに、広報紙等によって地域住民に対して参加を呼かける。

8　実施計画書及び実施状況報告書の提出

支庁長は、この催しの実施計画書を別紙様式によって作成し、4月18日までに本庁に提出する。

また、実施結果についても、行事終了後、同様式によって11月末日までに本庁に提出する。

……お知らせ……

会報第20号で札幌市の藤田正次さんから、自己紹介を兼ね「お知らせとお願い」がありましたので、会員の皆さんはご承知のことと思います。その開期が間近かとなりましたので是非、ご覧ください。

藤田正次の「しじみ蝶」写真展

◎ 期　間　　5月7日（木）から5月13日（水）まで

◎ 場　所　　NHKギャラリー（NHK放送局玄関入って右手に）
札幌市中央区大通り1丁目

◇ 図書の紹介 ◇

『北の国の雑木林』…ツリー．ウォッチング入門　菊沢　喜八郎　著
蒼　樹　書　房　発行　　定価　２３６９円

本書は北海道美唄（光珠内）を中心として、著者が北海道立林業試験場に勤めての研究成果のすべてでないが、１３年間に及ぶ研究史になっており、読者が本書を読み始めるとその内容の魅力に引き込まれ、止どまるを知らない。といった感じになるし、私たちボランティア．レンジャーにとっては、いろいろと学ぶことが出来、そのうえ示唆に富んだものになっている。

本書の序章とあとがきの一部を次ぎに引用し、著者の本書を書いた目的を知ってもらおう。

「……私の身のまわりにある雑木林の四季……。私はこのなかで、季節の移りかわりそれに伴って演じられる木々の変幻自在なふしぎな魅力と美しさにひかれ、これをなんとか記録に残したいと考えてきた。

私がこの本の副題に、ツリー．ウォッチング入門という題名をつけたのもそのためである。

……樹木は一見動かないように見えて、生き生きと動き生活しているものであることを、観察を通して理解してもらいたいと思ったからである。

鳥の観察と同じように、多くの人たを身近かな雑木林の樹木の観察に誘いたい。われわれの生活の周辺にある雑木林にはさまざまな木がはえていて、多様な生きざまを見せてくれる。春の芽だしの前から観察しつづけると、日一日とその様子が変わって行く躍動する姿をとらえることができる。

そこには、都市の片隅に置き忘れられたような雑木林にも、自然の作り出すさまざまなドラマが展開する。豊かな自然の宝庫は私たちの身近かな雑木林にあるのである。……

……この本は、私が北海道の落葉広葉樹林で観察し続けてきたことの記録である。読者を、身近な雑木林での樹木観察に誘うのがひとつの目的だが、同時に、私自身の北海道での１３年間の研究史にもなっている。

……全く人手の入らない自然というものは、もはやあり得ない以上、変わっていくのはやむを得ないことであろう。問題はどのようにそれを行なっ

ていくか。ということなのであろう。珍しい種や原生林のそれよりも、身のまわりの緑を大切にすることの方が重要だと私に思えるのだが。……」

◎　本書の主な内容

序章．　北国の雑木林．　第１章　ハンノキ属の葉はなぜ夏に落ちるか．　第２章　芽鱗の起源－ハンノキ属の進化．第３章　カバノキ科．第４章　落葉広葉樹林．第５章　低木樹種の生活－葉の生存戦略．第６章　葉の生　存戦略－総括と展望．あとがき．植物名索引．

◇　図書の紹介　◇

『続・森林の１００不思議』　社団法人日本林業技術協会　編

東京書籍　発行　　定価　１２００円

本書の帯びに「森林のおもしろ科学２」となっており、さらに「知っていますか？　もの言わぬはずの木や草がひそかにささやきあっている事実を。

広大な森林を構成する多種多様な樹草、そこにすむ様々な生物、聞いただけでも顔をしかめたくなるカビや細菌が果たす重要な役割、木材をはじめとする森林の産物の意外な事実、森を知り、森を歩く『続・森への誘い』」とあり、「まえがき」は編者によるもので『４年前の「森林の１００不思議」に続き、一人でも多くの方に森林に関心をもち、森林に対する理解を深めてもらうために、前回同様、主として森林総合研究所（旧国立林業試験場）の若手研究者の方々に日ごろの研究成果から、森林の実像に迫る話題を提供してもらったもので、森林の大切な働きを知り、森林を守り、育て、あるいはより良い利用を図るために多くの人々の理解と協力を願い……」とある。

内容は、前回の「森林１００不思議」と同じように１００項目について解説しているが、大きく６項目に分類している。ある程度、内容を理解してもらうために、その項目を挙げると　Ⅰ．森と歴史と生活　Ⅱ．森を育てる　Ⅲ．森は動いている　Ⅳ．木の暮らし　Ⅴ．森の動物たち　Ⅵ．森からの贈り物　になっている。

ちなみに『森林１００不思議』を紹介すると、その「はじめ」に……森林の働きの大切さを知らない人はいないと思います。しかし、その働きが森林のどんな仕組みによるものなのか、一本一本の木や草はそこでどんな役割を果たしているのかを知っている人はあまり多くないと思います。……そこで

国立林業試験場の研究者に日ごろの研究の成果の中から、読者の関心のありそうな、おもしろくて、ためになる話題を選んで書いたもの……これまで当り前のことと思っていたことにも意外な事実が潜んでいたり、正しいと信じられていたことが実は間違いであったりして、まさに驚きの連続……森林は、日ごろのストレスを解消する恰好の場として利用される機会も多くなり、いろいろの目的をもって足しげく訪れる所になると思われます。そのような時、この本は森を歩く楽しみを倍加してくれる……なぜなら、知的関心の充足は、レクリエーションに欠かせない要素であるといわれている……と、ありその内容は大きく５項目に分類しており、その項目を挙げるとⅠ．森の働き　Ⅱ．樹木の不思議　Ⅲ．木の生理　Ⅳ．森の中の生き物たち　Ⅴ．木材の話　で、このなかの１００項目について解説している。

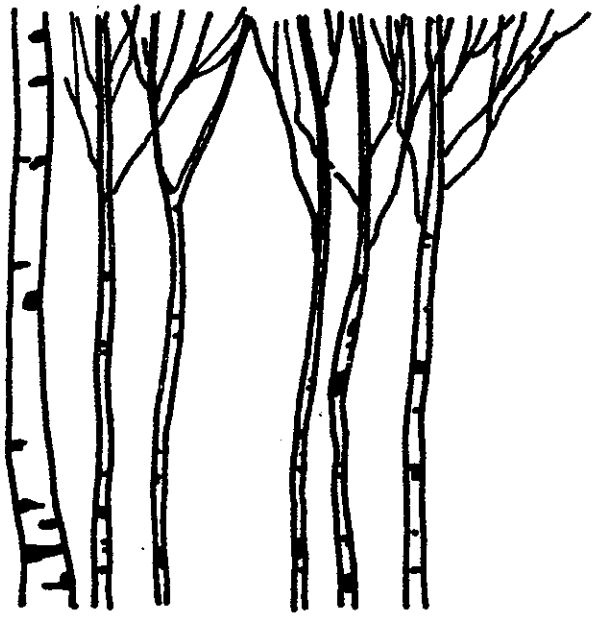
★　お　知　ら　せ　★

◎　平成４年度ボランティア・レンジャー育成研修会募集案内

北海道（保健環境部自然保護課）で、本年度のボランティア・レンジャー育成研修会の募集案内をしています。　身近かにボランティア・レンジャーとして推薦出来る人がおりましたら是非、紹介してください。

本年度は、第１１回（平成４年６月１１日から６月１３日まで、芽室町新嵐山＝十勝支庁管内）、第１２回（平成４年７月２３日から７月２５日まで、芦別市芦別温泉＝空知支庁管内）、第１３回（平成４年８月２０日から８月２２日まで、白老町ポトロ湖＝胆振支庁管内）で実施します。募集人員は各回とも３５名程度で、申し込み期間は第１１回……平成４年５月２０日まで（当日消印有効）、第１２回……平成４年６月２０日まで（当日消印有効）、第１３回……平成４年７月２０日まで（当日消印有効）となっています。

詳細・申し込みについては、〒０６０札幌市中央区北３条西６丁目北海道保健環境部自然保護課保全係℡０１１－２３１－４１１１（内線２５－５７１）です。



シラカバ